

ぼくとキリギリス

しずみ小學校一ねん

くぼすはる

ことしのなつ、ぼくをすずしいきふんにさせ
てくれる虫がいる。たった一ひきだが、わか
やまのうみへいったとき、車のボンネット
にとまっていた。パパが車をうごかしても、
なかなかおりようとしなかった。「いっしょ
にならへかえりたいのかな」とおもって、り
ょうでおよえるところにつかまった。
「やっ！」とノサマバツタをつかまえた。
とおおよろこびのいえへかえって虫がごく
さといっしょにいらてぼくのたからものとし
た。

つぎの日のあさ、げんきよくあはれるその
虫に「おはよう」とこえをかけた。ひるには
きりふきで水をかけてあげた。ゆうがたにな
るとその虫は「キリギリス」となき
ごえをきかせてくれた。しばらくしてあそび
にきたいとこが、

「これ、ギリギリスやで。」
とおしえてくれた。そのときはじめて、その
虫がギリギリスだと思った。

まりとギリギリスのおはなしにでてくるよ
うに、それからまいばん、きれいなこえをき
かせてくれている。じつくりかんさつしてみ
ると、かおはまるいけど、うえから見ると三
かくだ。あたまからかみのけが、二本ながく
のびている。さわれるとげとげしたものがい
っぱいで、からだはきみどりいろ。はねはう
すいちやいろで、そのはねをこすりあわせて、
なきごえだしているようだ。うしろあしはほ
そながくてとてもすらりとしている。

はたらきもののぼくたちじんげんをなつの
あいだじゅう、バイオリンひきのようにたの
しませてくれる。ぼくはふゆになっても、こ
のギリギリスをたいじにそだててあげたいと
おもっている。